肥前国　長崎
かつて大村湾を
囲む全域に
広がっていた
彼杵郡
総鎮守として
昊天宮は
鎮座する

肥前国彼杵郡総鎮守

昊天宮

昊天とは宇宙・大空を守護する天津神、三千年の昔、鳳凰が飛び立つ日を「昊天」というと古書に記す、その神格は太陽神であり古より人間の運命や宿命を司る神様として尊ばれる。

開運、旗揚げ厄除けなどの霊験あらたかな守護神として崇敬篤く、ご加護と幸せを願い沢山の方にご参拝を頂いております。

古代の祈り

連綿と続く古代からの祈り

■古御殿の神 ▶

昊天大神が宿る石神様。
太古の祈りを伝え、古御殿様と親しまれる。
万物の生成発展を守護する神として、その広大無辺の御神徳は多くの人々の崇敬を進める。

■桃の大石神 ▶

伊邪那岐神が桃の霊力で災いを除いた神話にあやかり、桃石を撫でると桃太郎のような元気な男の子が生まれ、手を合わせ祈ると元気な女の子が生まれるという。
桃の神力にあやかろうと厄除は言うに及ばず縁結びや安産を祈る人々が後を絶たない。

境内の神々

八百万の神々が集う聖なる祈りの場

■昊天稲荷神社

大村純伊が京都、伏見稲荷大社より稲荷の大神をお祀りした神社。

■祖霊社

氏子祖霊の御霊、戦没者の御霊、神道家の御霊が鎮まる社。月毎の祖霊命日祭をはじめ、春秋には祖霊大祭が斎行される。

由緒

昊天宮は、今から二千年程前、郡平野に文化を築いた時代があり、当時の豪族がその一門の氏神として建国の祖神をお祀りしたことに始まる。御縁起並に伝書等天正二年焼失により御代草創が明らかでないが上古より西方の鎮として肥前国彼杵郡の総鎮守となっている。大社として元明天皇の和銅五年（七一二年）に行基菩薩が御神体を郡ケ岳の聖域で謹製奉納した。

大村家御支配（平安時代）となりては、初代直純公を副祭して御歴代の守護神として御尊敬深く、兵乱には武運長久を祈り田地等数多く御寄進あり、祭祠の礼も最も厚く文明年中（室町時代）の頃までは、社殿も華麗広大であり、開拓興業活水の神として民間の崇詣も厚く郡内はおろか他郡から貴賤老幼の参詣者群をなし、お祭りも大へん賑やかに執り行われていたが、文明六年十二月に、大村信濃守純伊公、有馬氏と萱瀬で数度合戦されたが、御勝利なく加々良ケ島に潜居七ヵ年に及んだ。

この間日夜御祈願になり、御身を本堂川に於いて垢離（身を清める）千日参拝するとの誓願を立てられ、武運の開発を祈られましたところ、霊夢を得て大勝利となり、文明十二年八月九日に御帰領になった。ここに昊天大神の思頼を尊び、祭祠の礼を厚く、社殿の造営を壮に、神田の寄進数町等、神社の面目を一新せられた。この時、幸を恵まれたと言う意にて幸天と改名された。現在、市内の松や桜が付く地名は、昊天大神の神恩感謝に由来する。江戸時代には、大村藩総鎮守神と尊ばれた。

平成二十四年十月、氏子崇敬者の赤誠により平成御造営がなされ、御本殿以下の建物が完成。古代以来再び大社の威容を拝するに至る。

◇崇敬参拝◇　閑院宮殿下　大村藩主歴代　乃木希典大将　大村海軍航空隊歴代司令

御祭神

皇祖三組の夫婦神と伊勢と出雲の神々が鎮座する

主祭神

◆本殿六座

伊邪那岐神（いざなぎのかみ）
伊邪那美神（いざなみのかみ）
（国生み神生みの神様　延命長寿　夫婦円満縁の守護神）

瓊々杵神（ににぎのかみ）
木花咲耶姫神（このはなさくやひめのかみ）
（天孫降臨の神様　交通安全　安産子授け母親の守護神）

鵜葺草葺不合神（うがやふきあえずのかみ）
玉依姫神（たまよりひめのかみ）
（初代神武天皇の親神様　引付安産　育児と子孫の守護神）

◆相殿の神々

天照皇大神（あまてらすすめおおみかみ）
（日本国民の大御親の神様　太陽神家内安全福徳の守護神）

素戔嗚神（すさのおのかみ）
（祇園様　厄除厄祓いの神様　疫病送学問縁結の守護神）

◆副祭の神

大村遠江守藤原直澄神
（大村初代領主永承年間副祭）

神前を守護する随神像

江戸時代の享保十六年、病気を治癒した御神威に郡村住民全員で奉献した。厄除・魔除・病気平癒、健康円満を願う人々が像を撫でながら一心に祈る。

祭典

古式ゆかしい四季の祭

■おくんち祭・神幸祭▲　神社を出発した神幸行列は氏子各町を巡り人々に福を与える。

旧暦九月九日の祭礼から、おくんちと称された。お宮日例大祭は例年、旧暦の九月九日にあたる十月十八日に行われ、神幸祭では宮神輿が五百余名の氏子の供奉列と共に巡幸する。また二月三日には境内の特設舞台で行われる節分祭豆まき、七月は十五日の祇園祭と三十一日の夏越祭等、四季折々の祭典が執行される。

■鬼火焚神事▼

正月７日、門松や注連飾りを焚いて神々を送る神事。鬼火で温まると１年間無病息災で過ごせる。

■夏越祭▼

知らず識らずに身についた罪や穢を「茅の輪」をくぐることにより、心身を祓い清める神事。

年間行事（主な祭典）

1月 1日	歳旦祭	7月15日	祇園祭
1月 7日	鬼火焚き神事	7月31日	夏越祭
2月 3日	節分祭	10月18日	おくんち祭・神幸祭
2月11日	紀元節祭	11月15日	七五三祭
2月二の午	初午祭	11月24日	新嘗祭・大麻頒布祭

文化

受け継がれていく神恩感謝

昊天宮発祥

◆郷土料理 大村寿司の起り◆

文明6年（1474年）大村領主16代、大村純伊は有馬氏（島原）西郷氏(諫早)の連合軍に敗れ唐津の沖合にある加々良嶋に潜むが、文明12年(1480年)純伊は軍を整えて旧領を奪回した。このとき、純伊は大村領の総鎮守とされた昊天宮に戦勝奉告をおこなうが、度重なる戦で腹をすかした将兵達に領民は食事を仕度しもてなした。まず、モロブタに炊いた飯をしき、その上に具をのせ、更にその上に飯を置き、又具をその上にタップリ乗せてしめた、将兵達はそれを脇差で四角に切って食べたという。この領民のもてなし振舞が大村寿司の縁起となって、以来大村地方では御祝儀、節供の際かならず、大村寿司を作って、一家繁栄を祈念する慣しとなっている。

また、この時の領民たちの神楽が寿古踊・沖田踊・黒丸踊の郡三踊（国の重要無形民俗文化財）に今日伝わる。

鎮守の杜を子どもたちの庭に

幼保連携型認定こども園
昊天宮保育園

昭和50年に設立。幼保の一本化を図り、就学前の子どもの成長発達の連続性を考慮した一貫した教育と保育を目指すこども園。

昊天宮児童コミュニティセンター

子どもたちが集まり楽しく遊び、仲間の輪を広げるふれあいの場で、乳幼児とその保護者の交流を目的としたサークル活動等を行う児童福祉施設。

昊天宮学童保育
ゆめつこクラブ
にんじんクラブ

小学校放課後の生活を支援しながら健全育成を図り、保護者の仕事と子育ての両立支援と子どもたちの育成指導を行う放課後児童クラブ。

心を静めて祈る

歴代藩主が篤い崇敬を寄せ、
今も多くの人々が神恩感謝を捧げる昊天宮。
当宮では皆様の様々なお願いごとを
大神様にお取次すべく随時御祈祷を行っています。

個人の願意

初宮詣	家内安全	七五三詣
交通安全	安産	旅行安全
子授	合格	病気平癒
縁結	身体健全	心願成就

法人の願意

社運隆昌	事業安全	商売繁盛

出張祭典

地鎮祭	開店清祓	上棟祭
竣工祭	家屋清祓	神棚祭

■お問合せ
昊天宮社務所
〒856-0807
長崎県大村市宮小路2丁目537
TEL 0957-55-8450・FAX 0957-55-9545